

シリーズ

古代史をひらく

吉村武彦・吉川真司・川尻秋生 編

全6冊

今、列島の古代史像はどこまで解明されているのか。最新の研究成果をできるだけわかりやすく伝えるべく、具体的なモノに即して議論できる6テーマで構成。歴史学・考古学をはじめ多彩な分野の第一線・気鋭の執筆陣が描き出す、一歩先の「面白さ」。

【編集委員】

吉村武彦(よしむら・たけひこ)

1945年生。明治大学名誉教授。日本古代史専攻。著書に『日本古代の社会と国家』(岩波書店)、『聖徳太子』『女帝の古代日本』『蘇我氏の古代』『大化の改新を考える』(以上岩波新書)など。

吉川真司(よしかわ・しんじ)

1960年生。京都大学教授。日本古代史専攻。著書に『律令官僚制の研究』(塙書房)、『聖武天皇と仏都平城京』(講談社)、『飛鳥の都』(岩波新書)など。

川尻秋生(かわじり・あきお)

1961年生。早稲田大学教授。日本古代史専攻。著書に『古代東国史の基礎的研究』(塙書房)、『平安京遷都』(岩波新書)、『坂東の成立』(吉川弘文館)など。



前方後円墳

巨大古墳はなぜ造られたか

四六並製 326頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028495-0
C0321(2019年5月刊)

三世紀半ば以降、日本列島各地に生まれた驚くほど巨大な前方後円墳。なぜこの時期、この形で造られたのか。これらの古墳が持つ意味とは？



古代の都

なぜ都は動いたのか

四六並製 324頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028496-7
C0321(2019年7月刊)

古代国家の中心たる「都」は、なぜ動き続けたのか？各都城の発掘を手がけたエキスパートが集結、都の実態や移り変わりを丁寧に追う。



古代寺院

新たに見えてきた生活と文化

四六並製 364頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028497-4
C0321(2019年12月刊)

古代日本の社会・国家そして文化を考えるための豊かな歴史情報の宝庫、寺院。その実像を様々な分野の最新研究から明らかにする。



渡来系移住民

半島・大陸との往来

四六並製 342頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028498-1
C0321(2020年3月刊)

日本列島の文明化に大きな足跡を残した渡来系の人々。その具体的な姿と歴史的役割を、最新の研究成果を踏まえて明らかにする。



文字とことば

文字文化の始末

四六並製 294頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028499-8
C0321(2020年11月刊)

文字とことばの関係をめぐる新しい知見を、歴史学・日本語学など幅広い視点からわかりやすく解き明かす、文字文化研究の最前線。



国風文化

貴族社会のなかの「唐」と「和」

四六並製 358頁
定価=本体2,600円+税
ISBN978-4-00-028500-1
C0321(2021年3月刊)

「国風文化」とは何だったか。いつ始まり終わったのか。近年大きく進んだ研究状況を整理し、「唐」と「和」の関係の真相に迫る。